

「旧吉田茂邸再建説明会」記録

平成 24 年 11 月 24 日（土）10：00～11：30 国府小学校体育館

平成 24 年 11 月 25 日（日）14：00～15：30 大磯中学校体育館



再建プランのイメージ

※上記は基本的な再建プランであり、今後の詳細検討において、技術的・法令的な面から変更する可能性があります。



「旧吉田茂邸再建説明会」

会場	国府小学校体育館	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3	
	大磯中学校体育館	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 14	
次第				
【1】	開会			
	あいさつ	大磯町長 中崎久雄	・・・・・・・・	P 3, P 14
【2】	旧吉田茂邸再建の説明			
		(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)	・・・・・・・・	P 4
	①	在りし日の旧吉田茂邸		
	②	再建に向けた取り組み		
	③	再建内容の方向について		
	④	整備計画について		
		(生涯学習課長)	・・・・・・・・	P 6
	⑤	運営の方向について		
	⑥	利活用について		
		(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)	・・・・・・・・	P 9
	⑦	募金状況について		
【3】	意見交換	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 10,	P 15
【4】	閉会	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 13,	P 21

国府小学校体育館 平成 24 年 11 月 24 日 (土)

【開会 中崎町長あいさつ】

皆様、おはようございます。

本日は寒い中ではありますが、しかし、私たちがやろうとしているのは、熱く、熱く燃え上がりたい。そういう思いであります。この大磯町にとって、神奈川県や日本にとって、吉田茂氏の功績は色々な思いが皆様の胸にあるでしょう。私も平成 22 年 12 月に町長となりました。平成 23 年の 2 月、私は大磯小学校、国府小学校の両方の体育館をお借りしまして、吉田邸は町が皆様の意思で造っていこう、と申し上げました。400 人近い方々が、体育館に来ていただきました。色々なご意見が出ました。

太平洋戦争では、300 万人の方々が戦争に従事し、また、日本国民が亡くなったわけであります。この戦後の日本を、今日の日本の礎を創ってくださった吉田茂氏、先程申しましたが色々な思いがあります。このお顔の中に、強い意志を込めて、今の日本の礎を創ってくださる。そうでないでしょうか。

東日本大震災でも 3 万人弱の多くの方が亡くなりました。まさに、マスコミ流では未曾有でありました。太平洋戦争は、日本人が考えながらやった結果であります。いずれにしても、私たちは今一度その思いを、歴史の中のその思いを、この平成の時代にしっかりと次の時代に伝えていかねばなりません。県や国やまたは町民の皆様の、そして地球上の人たち、グローバルな方々の思いで、今、吉田茂邸は再建に向かい、大きく一步を踏み出したわけであります。おおよそこのようなものを建てますよと、そういう形も 3D の写真で皆様に、今日はお示しすることができます。今日を皮切りに、職員 260 人は、今一度、吉田茂邸再建に向かって進んで行きたいと思えます。皆様のご自宅を、失礼にも今一度お尋ねすることがあるかもしれません。しかし、町で建てる吉田茂邸であります。私が町長になったときに、平成 23 年の 2 月に申し上げました。町がやるのです。皆様一緒になって手を携え、次の世代のために頑張ってください。第一歩を今日記したいので、今日皆様にお集まり頂きました。寒い日ではありますが、熱い思いを持って職員は皆様にお話申し上げます。どうぞ 1 時間半よろしく願いいたします。ありがとうございました。

【旧吉田茂邸再建の説明】

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

最初に「在りし日の旧吉田茂邸」について、説明させていただきます。

この画面は、旧吉田茂邸の位置をお示ししたものになります。

上空から撮影いたしました県立大磯城山公園周辺の航空写真になります。

画面の中央にお示ししている白色の横線が国道1号線になりまして、ご覧のような（右側が平塚市側、左側が二宮町側）位置関係になります。

国道1号の南側に、赤く囲みました箇所が、旧吉田茂邸の在りました位置になります。

こちらは、旧吉田茂邸を庭園の西側から写したものになります。

これから、皆様には焼失前の旧吉田茂邸についてビデオを用いまして、旧吉田茂邸の外観から室内にかけてご紹介させていただきますが、その前に、旧吉田茂邸の外観からみた建物と各部屋の位置関係について説明いたします。

最初に丸で囲みました部分が、玄関ホールになります。その右側に応接間棟の1階と2階、玄関ホールを挟みまして反対側にローズルームと言われた食堂、その奥側に新館と呼ばれていた部分で、金の間、銀の間という位置関係になります。

では、これより大磯町観光協会から資料提供を頂きました、旧吉田茂邸の映像を8分程になりますが、ご覧ください。

(ビデオ映像)

こちらは、平成21年3月22日、残念ながら、本邸が焼失したときの写真となります。

こちらの写真は、現在の旧吉田茂邸周辺の航空写真です。画面中央部の、赤く四角で囲みました箇所が旧吉田茂邸になります。

ご覧のように、隣には火災の延焼を免れた温室があります。

また、兜門や七賢堂、吉田茂の銅像、心字池があります。火災現場より離れていました箇所には、現在もその姿は残しております。

こちらは、その拡大写真です。現在は、基礎の部分のみが残っております。

左側に在りますのが温室で、その右側が食堂や玄関、1段上がった部分が新館の金の間・銀の間が在った箇所です。

続きまして、再建に向けた取り組みについて、説明します。

本邸焼失という事態を受けまして、神奈川県や大磯町において、直ぐに検討組織を設置いたしました。

神奈川県においては、県職員や町職員からの組織となる「旧吉田茂邸再建検討会議」、主に学識者からの組織となる「旧吉田茂邸再建検討委員会」を立ち上げました。

また大磯町においては、町職員からの組織となる「旧吉田茂邸再建プロジェクト」、

町民の方々からの組織となる「旧吉田茂邸再建検討委員会」、そして町議会議員から組織する「旧吉田茂邸再建特別委員会」がそれぞれ立ち上がり、検討組織間において連携を図りながら、検討を進めて参りました。

大磯町旧吉田茂邸再建基金条例を、平成 21 年 7 月 1 日、議員提案により制定し、同時に募金活動が開始いたしました。

神奈川県知事宛に要望書を提出いたしました。これは、平成 21 年 7 月 9 日、当時の大磯町長、町議会議長、旧吉田茂邸再建検討委員会の委員長とで、神奈川県庁を訪れ、町の総意として「旧吉田茂邸の再建に向けた要望書」を直接手渡ししています。

吉田茂と大磯の歴史的魅力を考えるシンポジウムが、平成 22 年 2 月 5 日に赤坂プリンスホテルにおいて開催されました。

こちらは、その時の会場状況になります。当日は、松沢前神奈川知事にご出席頂いています。

続いて、旧吉田茂邸再建検討状況説明会を平成 23 年 2 月 19 日大磯小学校体育館において、また翌日の 2 月 20 日に国府小学校体育館において、それぞれ説明会を開催致しました。こちらは、説明会の様子になります。

続いて、再建内容の方向について、説明します。

神奈川県と大磯町とにおきまして、継続した再建に向けた検討を重ねる中、主な役割を次のように決めました。

大磯町につきましては、建物の再建主体と建物の維持管理、運営を担っていきます。

また、神奈川県につきましては、法面保護工事等の基盤整備と技術的な支援・協力を担っていきます。こういった形で役割分担を決めて取り組みを進めてまいります。

再建のコンセプトにつきましては、旧吉田茂邸再建に当たりまして、都市計画法、建築基準法、また都市公園法との関係から博物館施設として、吉田茂の生活空間と交流空間を体感できる機能を、吉田茂の事績や近現代史を学ぶ機能としました。

再建の意義につきましては、丘陵地の緑を背景とした庭園からの景観の再現、吉田茂の息吹を感じながら、近・現代史を学ぶ場の創出、歴史教育の拠点としました。

再建イメージにつきましては、再建の検討範囲として応接間、玄関ホール、食堂、金の間、銀の間。完全復元が難しいが、焼失前の形態、仕様の復元をめざす。再建しない部分は礎石広場とする。温室は、最低限の改修とする。事務的機能室の設置をする。としています。

次に、整備計画について説明します。

まず、県立大磯城山公園の整備概要について、説明します。

国道 1 号の北側については、面積約 7.0ha、主要施設としては展望台や茶室、郷土資料館があります。

また国道 1 号の南側については、面積約 2.9ha、主要施設として日本庭園、管理棟、そして、旧吉田茂邸が計画されています。

これらを併せまして、全体面積が約 9.9ha となります。

次に、国道 1 号の南側の旧吉田茂邸区域において、神奈川県が進めています事業概要について、紹介します。

平成 21 年度、神奈川県におきまして用地の取得後、平成 22 年度より本格的な整備をしていますのでその概要について説明します。

ご覧のように色が付いた範囲について、主な工事として、園路整備がされました。こちらが、園路整備後の状況です。

平成 23 年度には、ご覧の色が付いている範囲について、主な工事として日本庭園整備がされました。

こちらは、日本庭園整備の写真で、平成 19 年ごろの焼失前の状況、そして平成 24 年 2 月ごろの整備後の写真です。

今年度については、ご覧の色が付いている範囲について、兜門西側に管理棟の建築工事を、また国道 1 号沿いに駐車場整備工事を主な工事として整備を進めております。

平成 25 年度以降については、ご覧の色が付いている範囲について、園路整備等が計画されています。また、この中に旧吉田茂邸が含まれています。

それでは、建物の再建計画を説明します。

今後の計画としては、今年度に基本設計委託、25 年度に実施設計委託、26 年度から再建工事着工へと進める計画です。

こちらは、基本設計前の再建基本プラン図になります。

今後の詳細な検討において変更となる可能性はありますが、赤色で囲いました部分が再建の範囲となり、地上 2 階・地下 1 階の建物を再建します。

本日は、このプラン図について立体的な図面を用意しましたので、ご覧下さい。

こちらは、再建する建物を真上から観た図面になります。先程のプラン図において色で囲いました範囲が、この範囲になります。

それでは、この図面から少しずつ視線を下げていった図面を用意しましたので、画面の方をご注目下さい。

確認になりますが、正面にありますこちらの箇所が玄関になりまして、その右側が応接間棟、玄関を挟んで左側が食堂、その奥側が金の間・銀の間になります。

それでは次に、この図面から少しずつ角度を変えた図面をご覧頂きますので、画面をご注目下さい。回転方向は、時計方向になります。

イメージの最後に、先ほど旧吉田茂邸の現状について写真をご覧頂きましたが、この写真と重ねたものを用意しましたので、ご覧下さい。

こちらは同じく先ほどの現状写真の拡大したものをを用いて、重ねたものです。

ご覧のように、再建イメージは焼失前の姿に近づけるよう、努めて参ります。

(生涯学習課長)

それでは、運営の状況について説明させていただきます。再建のコンセプトの中で、博物館施設としての方向性をご説明しました。

法的な規制の理由だけではなく、旧吉田邸には、たくさんの方に来ていただき、またその方々がリピーターとして、何度でも足を運んでいただくような運用を考えていくうえで、博物館的機能を備えていくことが必要ではないかと言うことで、説明をいたします。

具体的に申し上げますと、最初に展示公開が挙げられます。それを大きく分けると、常設展示と企画展示という2つの考え方があります。

常設展示につきましては、例えば応接間棟で、写真でいうと左側が応接間棟、右側が2階部分になります。

1階部分には、正面にマントルピース、応接セット、また各国の要人から頂きました品物や写真が飾られております。いわゆる、吉田茂元首相が生活していた空間を再現しようとするものです。

2階部分でいいますと、奥の部屋には掘炬燵がありまして、さらに首相官邸と直接つながる黒電話、いわゆるホットラインがありました。また、なげし部分には、色々な著名人から頂いた額などが飾られております。

こちらは新館の銀の間というところでして、吉田茂元首相の寝室となっていたところで、ベッドが置かれていました。

玄関ホールには、さりげなく置かれている壺の中にステッキや帽子が置かれておりました。

これらを全て再現することは難しいところですが、いつ訪れても、吉田茂元首相が生活をしてきた当時の雰囲気、面影を感じ取れるような生活展示が必要でないかと考えています。

写真イメージとしての常設展示場所は、図面で合わせますと、応接間棟1階と2階、新館2階部分、金の間、銀の間というところが考えられます。

常設展示は、一度見てしまうと飽きてしまうので、2度、3度はどうかという方もいられます。再び観に来たいと関心を持っていただくには、様々なテーマを設けて、企画あるいは特別な展示と一緒に考えていかなければと考えています。

現在、町では吉田茂元首相に関する資料を一所懸命集めております。また吉田茂元首相に係わる人物の資料もあわせて集めています。

そういった資料の中には、常に展示することは難しい資料もありますので、そういったものは期間限定で見て頂く。もちろん町で持っていない資料につきましても、他の博物館、研究機関、個人、団体から借り受けて公開をすることも必要であると考えています。

左の写真は焼失を免れました七賢堂の中にありました資料です。これは神奈川県が所有をしております。右の写真は、ビデオでも一部紹介いたしましたが、吉田茂邸の風景が描かれ、お客様に使われた食器です。

左の写真は、吉田茂元首相と関係の深い人物が描かれた書や絵を貼り付けた屏風でございます。右の写真は、吉田茂元首相の関係の手紙でございます。そういったものも随分、集まってまいりました。

こういった特別なものを、期間を限定しながら見ていただく。そして、新たな来館者を開拓していく、あるいは観光客の方に喜んでいただくといったことを考えています。

企画展示の場としては、そのような場所はどこが適しているかということですが、スクリーンに出ました、1階の食堂を考えています。ここが一番効果的な場所ではないかと、現在は考えているところです。

また博物館の機能として、もうひとつ大変重要な機能は、教育普及だと考えています。いくつか挙げられますが、そのひとつとして、町民や利用者の方々と色々なことに挑戦していくという考え方です。

二つ目は学習支援です。小学校、中学校、高校、大学など、学生に対する支援。例えば校外学習、修学旅行であるとか、大学のゼミであるとか、そういったものに対しても十分支援ができる体制が必要でないかと考えます。

この二つの機能を達成するためには、三つ目に専門性といったものも備えておかなければ対応できないであろうと考えています。

さらにこの三つを高めていくために、単独での施設ではなかなか十分に対応できない部分もありますので、様々な施設や組織、団体、事業、そういったところとネットワークを組みながら行っていくことが大切ではないかと考えています。

教育普及のイメージとしては、郷土資料館で行っているような事業をスクリーンに入れておきました。左の写真は地域の方、利用者の方と一緒に資料を整理し、一緒に研究して、一緒に色々な企画をしていこうという活動です。右の写真は、小学校の校外学習の実例です。

次の左側の写真は講演会、右側の写真は専門的な講座、専門的な部分も含めて様々なことに対応できるようなスキル、能力を備えておくということも必要でないかと考えています。

教育普及活動は、建物全体を活用しながら行っていくわけですが、拠点としては食堂の地階に地下室がありまして、当時はワインセラーとして使われていたそうですが、この部分を使いながらできるのではないかと考えています。

面積的には限りがありますので、少人数が中心と言うことで、人数が多い場合には、本邸とは別の場所に神奈川県が整備を予定しています公園の管理棟がございます。

その管理棟の中には、講座やガイダンスができるようなスペースが設けられるようなことを聞いておりますので、人数が多い場合には、そちらを利用させていただこうと考えています。

以上が再建される旧吉田茂邸について、たくさんの方々に来ていただくには、しっかりとした運用を考えていかなければならないと考えていますが、その基礎的な部分で、博物館的な機能を意識して進めていこうというものです。

そのうえで、具体的な利活用について考えていく必要がありますので、今後の方向性については、具体的な利活用を検討する組織を作っていく予定であります。

その組織の構成としては、教育関係者、町民の代表の方、あるいは運営・維持にか

かわる方、専門的知識を持った方々といった、それぞれの立場から意見を頂きながら進めていくことになろうかと思えます。

運営の方向については以上になります。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

それでは、最後に募金状況について、説明します。

現在の基金の状況と、その使用目的となります。

町民の方々を始め全国の皆さんより約5千3百万円を、町の積立約2千円を、財団法人吉田茂国際基金より約2億7千万円のうちの2億円を、これらを合わせまして旧吉田茂邸の再建と調度品の調達を目的とした再建基金に、合計で約2億7千3百万円を積立しています。

また、財団法人吉田茂国際基金より約2億7千万円のうち約7千万円を、資料保存活用や調査研究助成等を目的とした整備活性化等基金に積立しています。

これらの基金につきましては、それぞれの目的に合わせ、今後有効的に活用してまいります。

こちらは、旧吉田茂邸再建基金の内訳を表したものです。

平成24年10月末現在、約2億7千3百万円となっており、町内の方々からは約3,620万円で全体の13%となっています。町外の方々につきましては、約1,420万円で全体の5%となっています。

こちらは、再建計画事業費になります。

今後、基本設計や実施設計で変更となる可能性はありますが、これまで説明しました再建基本プランに基づく再建事業費を、最大総額で約6億円と想定しています。

また、国の交付金見込額は再建費用の概ね50%と見込んでいますので約3億円、只今説明しました再建基金現在高は約2億7千3百万円ですので、現在の再建基金の不足分としましては約2千7百万円という数字になります。

この約2千7百万円を目標額として、募金活動を再開しております。皆様の、更なるご協力をお願いいたします。

以上で、説明を終わらせて頂きます。

【意見交換】

(A氏)

はじめに、吉田邸に博物館機能を持たせる。残念ながら建物は焼けてしまっているのです。やっぱり博物館としてリピーターを呼んでいこうとなると、単なる写真だけでなく、吉田さんが現役時代使っていた色々とそういう物が具体的にどの位残されているのかどうか。現実にも町としても一所懸命集めているということなのですけども。あれだけのスペースですから相当の展示品が必要となるがその辺は大丈夫なのか。

(生涯学習課長)

建物にあった調度品については、かなり焼けてしまっていますが、焼ける前にかなりのものを運び出しているということも聞いております。そのようなものは、一部、財団法人吉田茂国際基金に置いていた、あるいは麻生邸にも資料があると聞いております。ただどの程度使えるものなのか、またどの位提供していただけるものなのか、現在交渉を進めているところです。全ての調度品、全ての再現をするのは非常に難しいと思います。当時の写真とか、全く同じものが出来なくても似せたものをまず生活空間の面影を見ていただけるような、まずそういう生活空間の再現に努めていく、必要な部分は、現物やパネルなどを整理しながら進めていく、というふうに考えています。

(B氏)

再建する建物の関係のことですけど。実際にどの程度まで、焼失前の建物の実物に近づけて再建するのか。例えば食堂の壁は鹿の皮が張られていた。同じもので再現すれば相当な金額となってしまいが、同じ再建するならば、京都の金閣寺では、焼失はしているが再建して国宝になっている。吉田邸も再建するならば将来国宝になるくらいのちゃんとした再建を目指すべき。実際にどの程度までの資材であるとか、調度品を使っただけの再建になるのか。

(建設経済部長)

再建については、県における再建検討委員会の学識経験者の委員からは、50年後に文化財としての指定ができるような再建を目指して頂きたいとの意見を頂いている。

目に触れる部分につきましては、極力同じような材質を使えるように努力して再建してまいりたい。そのためにも募金の方を頑張っていきたいと思っています。

(A氏)

県が管理棟を作って、町民のための利用スペースをやりたいと。前々から言われていて、二宮町のような立派なラディアンみたいなものではなくても、大磯町にはそういうホールは全くない。

吉田邸の中にそういった研修施設とか町民ホールみたいなものを作ってほしいと、再建委員会の意見として県の方に要望していた。具体的に町民ホール的なものがどのくらいのスペースで、何人ぐらいが利用できるのかどうかその点についてお伺いした

い。

それから昨日も大磯町の行政改革についての話があった。大磯町では観光客が減り続けている。吉田邸がなくなったことも一因している。それに関連して滄浪閣が荒れ放題、具体的に滄浪閣が今どうなっているのかよろしければご説明願いたい。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

一問目の町民の利用できるスペースの大きさについてですが、この建物は博物館として町の方は考えております。今後変更の可能性はありますが、本邸の中につきましては、まず、地下室を利用していきたいと考えています。面積でいいますと約 50 m² ~ 60 m² の大きさを考えております。また、兜門の西側に計画されています公園の管理棟、こちらにつきましては職員の管理する事務室のほかに、利用者が気軽に休憩できる場所や雨天時の避難場所、ガイドツアーの拠点として使用できるスペースが計画されておりまして、全体の面積が約 170 m² あるうちの休憩等に使用できるスペースは、倉庫を含めておおよそ 100 m² あります。町の郷土資料館の研修室が約 85 m² ですのでそれに形を整えた大きさ程度になるのではないかと考えています。

(A 氏)

何名が入れるのか

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

椅子を使った場合で換算すると、一人当たり 1 m² と考えております。

倉庫を含めて約 100 m² ありますので、100 人程度が利用形態により入れるのかなと考えています。

(都市計画課長)

滄浪閣については、老人保健施設ということで計画されておりますが、今は中断している状況です。

(生涯学習課長)

滄浪閣については、関東大震災で一部壊れています。その後、昭和の初めに建て直されています。そして、その部分を町の文化財指定にしております。

町が文化財として指定するに当たっては、増築が繰り返されて出来ておりますので、元の形に直していただくという条件の中で指定をさせていただきました。

今後どういう状況で進むのか解りませんが、文化財という部分も十分留意していただき、文化財として残していただきたいことを要望していきます。

(B 氏)

再建された建物、先程の質問者の質問に絡むかもしれませんが、博物館的なものでやっていきますと、建物を建てたからには町に財源を生み出すことを考えていかなければならない。ただ単に建てただけでなく、ざっくばらんに言いますとその建物が金を生み出すという性格を持っていった方がいい。

単なる博物館でなく何かを付加することによって町の人たちの雇用の促進にも影響がしていくのではないかと。

要するに私がお聞きしたいのは、建物を博物館だけではなく、以前プリンスホテルであった時、あの建物を使って結婚式の場などに使っているわけです。

例えば、食堂の部屋を使って結婚式の場とか、二階の和室なんかを使って、お茶のグループの人たちに貸し出すとか、その建物が展示物としてではなく、お金を稼いでくれると。そういうことになれば、そこで働く人が必要になってきますから大磯町民の人たちの雇用の促進にもつながる。大磯町の外からバスに乗って人が来るわけですから大磯町の人だけではなく、外の人達からの金も稼いでくれる。

国道の向かい側のスペースも使って売店みたいなものを設けて、大磯全体の地産・地消をし、そういうものを同時に売るスペースみたいなものを同時に考えていけば、単なる博物館という利用だけではなく、もっと大きな利益がでてくる。そのような考えはいかがでしょうか。

(建設経済部長)

一般的に、博物館には維持管理に経費がかかると言われている。町でも単なる博物館とは考えておらず、先程、利活用に関して組織の設置について説明させていただきました。

委員としては、博物館関係者に入っていただきますが、その他、実際に歴史的建造物を活用し、利益を生んでいる方、ノウハウを持っている方にも加わっていただき、旧吉田茂邸は博物館としてだけではなく、まさに言われたような、様々な付加価値を生んでいただく運営について考えていただく委員の構成を考えていきたい。

(中崎町長)

本日、皆様にはお集まり頂きまして、寒い中で熱い思いを是非町に頂きたいという話をしまして、町民の方に色々な意見を頂きました。

基本設計が始まった。あとはその利活用について皆様のご意見を頂きながら、旧吉田茂邸は町の財産であると同時に国の財産でもある。県立公園の中でこういったものを作っていくなかで色々な制限がある。この制限をクリアしながら皆様に利活用してもらえるような建物を考えていきたいと思っているので、今日に限らず、いろんな場所で意見を貰いたいと思います。

意見を言われた方は、地区の代表の方ではないと思いますが、熱い思いを頂きました。町の代表の意見として承りました。

町も議会も町民も一体となって、この吉田茂邸を認識していかなければならないと思います。

【閉会 建設経済部長あいさつ】

本日、大変お寒い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日頂いた意見を踏まえまして、今後きちっと後世に残すような建物を、また魂を吹き込んでいくのが町の使命であると考えております。本日は大変ありがとうございました。

大磯中学校体育館 平成 24 年 11 月 25 日（日）

【開会 中崎町長あいさつ】

皆様、こんにちは。

寒い中、お集まりくださいます、ありがとうございます。

待ちに待ったという表現がよろしいかと思いますが。私は、旧吉田茂邸焼失後、多くの議論があり、町ではしっかりと旧吉田茂邸の再建という大きな宿題といたしますか、命題といたしますか、そういうものを抱えて前進し、私中崎が再建に向かって進んでまいりました。

昨日も国府小学校体育館の方で説明会を行ないました。平成 23 年の 2 月、国府小学校、大磯小学校で説明会を執り行いまして、両方を合わせて 400 人近い方々にご出席いただき、色々な議論を頂きました。こういう形のもので建てていきたい。しかし、なかなか計画の実態を皆様にお示しできないなかで、ぜひとも町が主体となってやっていかねばならんと。私は、町長就任後、2ヶ月目位ですが、皆様にお話したことを鮮明によく覚えております。やっと、ここに参りまして、県と共同でこういった形の旧吉田茂邸の建物ができるのだと今日皆様にお示しできるわけでありまして。長い時間をかけまして皆様の気持ちの中で、一日も早く町は皆様にその実態をお知らせしたいと思っておりました。多くの議論がありました。県立公園の中に建てる旧吉田茂邸、町が主体で建てる旧吉田茂邸、皆様の集まる場所も欲しいといった色々なご意見の中で、最大限、町と県は努力をして、おおよその形というものを皆様に今日、お示しいたします。東北の震災がありまして一時、旧吉田茂邸再建のための募金活動は休止しておりましたが、その間も継続して県と話を進めまして、今日を迎えることとなりました。約 1 時間近くになりますが、私たちはこういうものを造っていくということを皆様にお示ししていきます。

実際に、どれぐらいのお金があって、どういうものを建てていくのかは皆様の関心があると思います。町は全職員が一体となりまして、町が主体でやっていく旧吉田茂邸再建であります。大磯町が力を合わせ、一步一步進んでいくために、260 人の職員がどこまで一体になって、全町民の方にお願いにいけるか。それはわかりませんが、私はやっていきたいと、そういう思いでありました。約 2 千 7 百万、6 億まで届かない金額であります。そこを目指してやっていきたい。最後までお聞きいただき、今日皆様の中にしっかりと捕らえていただきたいと思います。長い挨拶になりましたが、それでは始めさせていただきます。

【旧吉田茂邸再建の説明】 省略

【意見交換】

(C氏)

再建まで2,700万円まで縮まったということなのですが、町として例えば寄附して下さいということを、例えば麻生議員とかに頼んだりしているのですか。ただ寄附して下さいと言っているだけなのか。他にも貰えそうなところに行っているのかどうかお聞きしたい。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

ただいま国会議員に募金についてお願いしたらどうかというご質問だと思います。

お名前の出ました議員の方につきまして、現在、選挙が近づいている中もありますが、これまでも連絡を図っている中で、議員の一人として少し距離を置きたいというようなことを聞いております。町の方からも関係者を通じて今現在こういう形で事業の方は進捗しています。ということの間接的には報告しております。

また、今後の募金活動のなかで、政界における専門的な雑誌がありますが、そういったところにも募金活動といたしまして掲載をしております。

また新たな募金方法としまして直接口座を設けまして振り込むこともできますということも予定しています。貴重なご意見をいただきました。そういった方々からご寄附いただけますように今一度働きかけをしたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

(C氏)

ただ掲載をただけでは誰も金を出してくれません。本人の前に行って説明をしてもいいのではないかと。そういうことは何もできていない。お金は、単に集めようとしたって集まらない。もう少し真剣に集めてください。

(D氏)

基金不足については、今の方と違った意見になってしましますが、厳密に基金を集めるのではなく、その範囲でやるのがいいのではないかと。そういう設計も、仕様も落とすなりして考えたらどうなのかと考えます。寄附を集めるのはいいのでしょうか。

平成26年度に再建工事着工と書いてあるのですが、完成はいつになるのでしょうか。平成26年度まで、あと2年あるわけですがその間は公園として使っていくのでしょうか。使えるような状態になっているのでしょうか。

(建設経済部長)

現在預かっている範囲内で再建という話なのですが、説明でもお話したとおり、最大限6億かかると見込んでいます。これはなるべくオリジナルと同様の材質を使っていくとその位になってくる。ただ現在の状況からすると、目に見えない部分はグレードダウンしなければならない状況ですが、50年、100年後には、再び文化財として指定されるようなオリジナルに近い再建を目指したいというところでこの金額でお願いをしているという状況です。

2点目の完成の時期はいつか、についてですが、予定では平成27年度中の完成を目指しています。平成28年度には一般公開が出来るような形で進めてまいりたいと考えています。

公園については、すでに造成工事も進んでおりまして、管理棟も今年度から来年度に完成する予定で、公園の一部について仮オープンの計画もあると、県からは聞いております。

(D氏)

来年の秋には、城山公園と陸橋か何かで繋がる予定ですか。

(建設経済部長)

計画のなかでは城山公園と一体となって整備するという事なのですが、現在国道1号で分断されている。計画の中では両公園を歩道橋でつなぐという計画もありますが、それについてはまだ調整中ということで、おそらく現状ではそのままの形で仮オープンするのではないかと思います。

(C氏)

町には会議をするような場所、会場がないのですが、以前300人位入れる場所を作るようなお話はあったのですが、それはお金がないから作らないと。町にはそういう場所がひとつもないですよね。そういう話は全部無くなってしまったのかどうか。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

旧吉田茂邸再建にあたって大きな集会場ができるのかどうかというご質問だと思います。先程説明させていただきましたように、色々な法律の関係から、この建物は主な用途としては博物館として考えております。博物館として必要な部屋を設けることについては、特に問題ないのですが、それ以外の集会室を設ける場合にはその利用方法によりまして、基準法上、複合施設の扱いになりまして、耐火建築物ということで、木造建築ができなくなることも考えられます。

今回は集会室という形ではありませんが、地下室において、学習単位のスペースが出来る所を検討しています。また建物以外では、兜門の西側に県が計画している管理棟内に収納機能スペースを含めて約100㎡程度、100人弱になると考えています。公園施設である管理棟内のスペースについて利用できるよう県と調整をしているところです。

(E氏)

平成21年に全焼した時に保険金が出たと思うのですが、それを資金に建て直しが出来たのではないかと単純に思うのですが、保険金は無かったのでしょうか。

また、今後は城山公園と一緒に、公園として維持することになるが、維持費が相当かかるのではないか。今でも城山公園は4千万ほどかかっていると聞いている。町の負担で管理費を維持していかなければいけないとなると、町としてはどのように考えているのでしょうか。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

1点目については、火災があった時に保険の扱いはどうなったのかというご質問だと思います。

町が保有する建物につきましては、全部まとめて保険に入っています。おそらく前所有者の方もひとまとめにして保険に入っていたと思われませんが、具体的な内容については前所有者のことになりますので不明の部分がありますが、町としましては再建に向けた財源の確保のため前所有者への協力をお願いしています。現実的には保険金でなく募金としての確認はしています。

2点目については、維持管理費がかかってくるのではないかとというようなご質問ですが、こちらにつきましても、再建後の建物につきましては、町が維持管理を担っていきたく、先程画面にも出てきましたが、今後の利活用については、町民の方をはじめとしまして、博物館機能ですので教育関係の方、その他に経営とか運営面とか出てきますのでそちらの方々の意見をまとめながら、今後維持管理費について、少しでも効率的に図れるように計画を進めていきたいと思っています。

(F氏)

町の方では、吉田邸が建てられたあと、文化財的な価値について話された。500年、600年後に重要文化財とかに指定がされるのかもしれない。

私たちが生きている間、子どもたちに見せていきたいと思っています。

文学者や彫刻家とかは聞いたことがあるが、政治家の記念館ということはあまり聞いたことがない。地方でもたくさん色々なものが作られたが、人が来なくて閉館となっている。今回は有名な方の建物なので、建設されれば人は来ると思われる。

城山公園にはバス停があるが、大磯から二宮方面に行くバス停にはスペースと腰掛があるが、あまり使われていない。逆に反対側は多く方が利用しているが歩道が狭い。「いらっしやい」のメッセージは良いが、「ありがとう」のメッセージは無い。町の感覚ではないと思うが、どうか。来客をうまく迎えて帰すことが必要ではないか。

それと、団体でリュックを背負い歩いてくる人がいる。バスで来る人、自動車で来る人もいる。健康をかねて歩いてくる人たちに合わせて道を広くしていかないと。自動車の利用者についても、駐車場も考えなければいけない。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

今後、建物が再建されると人の往来が多くなるということで、交通アクセスについてのご質問かと思っています。

様々な方が来られますので、公共交通機関を使用されて来る方は、大磯駅や二宮駅からバスを使用して来られると思います。

バス停については、安全を確保しながら、人の往来に支障が無いように考えていかなければいけないことから、今後の課題として取り上げさせていただければと思います。

車を使用して来られる方は、西湘バイパスや小田原厚木道路のインターを使い、国

道1号に出てくるということになりますが、交通安全面に配慮しながら、人の往来について安全を確保出来るように、週末に町内を歩かれる方にも、今後の課題となってきますので、今後の関係機関との検討課題となると考えています。

(G氏)

管理は町が責任を持つとなると火災など気を付けなければならない。管理に相当責任がかかるが、入館者は有料なのかどうかお聞ききたい。

また、町としては、観光客に気持ちよく来てもらいたいと思うが、イメージとしてはプリンスホテルから嶋立庵、滄浪閣とか続くが、こういったものを見てもらいたいが、交通の問題などがあるが、町としての総合的な計画があればお聞きしたい。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

建物の有料化のことにつきましては、建物の維持管理のほかに、セキュリティーを高めるため、また、クオリティーを上げるためにも、観覧料の徴収は視野に入れています。

観光という面につきましては、基本は文化・教育施設で博物館としておりますが、今後のまちづくりの核を担っていく建物としても考えています。人を呼び込むという観点からは観光振興的な部分も入ってきます。町の中を歩いていただくために、吉田邸を一つの拠点として、嶋立庵、島崎藤村邸、駅前洋館、大磯港は大切な要素となってきますので、町の中をめぐるようなものを是非考えていきたいと思えます。

(E氏)

吉田茂はバラが大好きで、5千本ほど植えられていたと思う。バラ園だったところは駐車場として無くなっていると思うが、大好きであったバラをローズルームという名前だけでは可哀想だと思いますので、バラの植栽の場所があったら良いと思う。

東京にある岩崎邸は、スタッフ全員がボランティアであった。入館料は設定され、下足での入館は出来なかったが、それでも靴を脱いで、絶えず人は入館していた。中には色々なものがあり、気持ちよく観覧できた。そんなものが出来れば良いと思います。

大磯町にも元気な中年以上の方もいらっしゃるの、ボランティアを高めていければ素敵だと思います。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

バラについては、国道1号側に計画している駐車場の南側から兜門に向かう間に、バラ園を計画しています。吉田茂元首相は、日本バラの会会長を務めたほどの愛好家ということもあり、人を呼び込むために色々なことを考えていかなければならない中で、例えばバラの咲く時期に、庭園や建物の中にバラに関するものやってみたい。また、吉田茂元首相を偲びながら、人を呼び込むような工夫をしていきたいと考えています。

東京の旧岩崎邸はいい模範だと思います。一つの目標としてはいい例だと思います。

そのような形で進められるかどうか詳細について考えていきたいと思っています。

(F氏)

政治についてですが、吉田邸ではどのような風に行われ、どのような成果があって、人々の評判や人間性、その辺りのことについて聞きたい。

政治家についてはストーリー性が無くて面白くない。バラにはある。町からはあまり話が出てこないのはどうしてか。

フランスでは大きなバラ園があった。戦時中フランスはドイツに敗れ、食糧難のため、バラを植栽するより作物を作るような話になった。その時に、作物を作る講師がバラの苗木をアメリカに持って行って増やした。サンフランシスコ講和条約のときに、吉田元首相にバラを渡したのが縁で、吉田邸に持ち帰ったというエピソードがある。そういったエピソードを最大に利用しない手はない。

バラは整備するのに費用がかかる。所有者が変わってからそのうち無くなってしまった。

バラ園は道沿いにあるようなものではなく、広い敷地があるのでその中でお願いしたい。

バラが好きな人は自分で作る。そういった人は何度も来る。そういった人たちにボランティアになってもらい整備をしてもらえば良いのではないか。

(生涯学習課長)

政治家の関係する記念館的な建物としては、近隣では御殿場にある岸邸があります。規模としても近いものがあり、参考にさせていただくところがあります。

政治については興味を持ちにくい部分もあります。政治家の歴史、政治の歴史、そういった部分では集客しにくい部分もありますが、吉田茂元首相の功績や足跡だけでなく、嗜好品や趣味等いろいろな切り口での企画を考えていきたいと思います。

また、吉田茂元首相に係わる人物で、大磯でいえば伊藤博文をはじめ、多くの方が直接、又は、間接的に係わってきます。興味を持たれている方も千差万別ですので、より多くの方に関心を持っていただくような企画を考えていきたいと思います。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

バラ園については、県の公園施設の中で整備が進められています。吉田茂元首相はバラがとても好きだったことは、多くの方が知っている部分だと思いますので、その辺のPRが出来るように、ハード面だけでなくソフト面からも神奈川県と連携をとりながら対策をしていきたいと思います。

(F氏)

駐車場の関係です。以前は海のほうから銅像に行ける門があったと思う。あそこの近くには釣人の駐車場になっている場所があり、多いときに15台ぐらい止めている。それを使い裏門を作って、その場所からも入れるようにする。利便性について考えてみるとどうなのかと思う。

城山公園の一体化について、橋を作ることについてはお金がかかる。景観も悪くなる。計画にあっても具体的な計画には無い。その辺について教えて欲しい。

(都市計画課 旧吉田茂邸再建担当主幹)

駐車場については、先程説明したとおり、今年度の計画で進めていくようになっていきます。

具体的な計画は、神奈川県が詳細を詰めていくと思われるので、町に情報が入り、地域の方に情報が提供できるようになれば、皆様の意見を踏まえ、報告連絡をしていきたいと思います。

また、橋の件ですが、既存の城山公園のアプローチとして、公園が一体となるような形での連絡橋になるような話を聞いています。来年度までの計画には、具体的な計画は聞いていません。その後、新しい情報も聞いていません。

新しい情報が入れば、なんらかの形で皆様にお知らせできればと思っています。

【閉会 建設経済部長あいさつ】

本日は、大変お寒い中、1時間半お付き合いいただきまして、誠にありがとうございます。

ようやく本日を迎えることが出来まして、皆様にお示しすることが出来ました。これはまだ絵の段階でありまして、再建まであと3年ほどかかりますけれども、後世に残るような立派な建物を作ってまいりたいと思いますので、皆様からも今以上にご支援を承りたい。

また、ご意見をいただければと思います。本日は誠にありがとうございました。